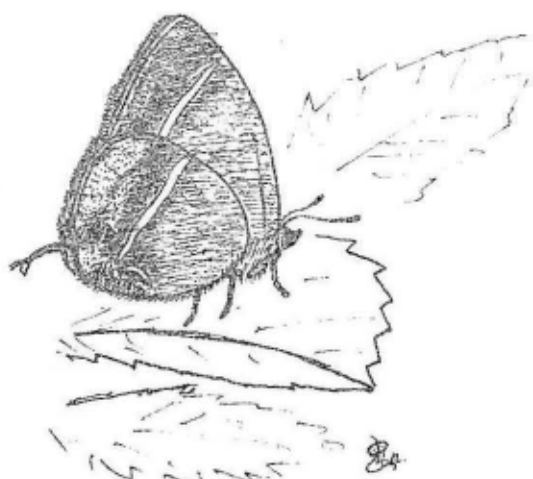


ゼフィルス

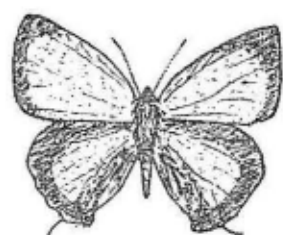
チョウの中にミドリシジミとよばれる仲間がいます。彼らのオスの多くが、緑色や青色に輝くはねを持っています。たいへん美しくキラキラ輝くので数多くのチョウの中でも人気があります。

チョウの愛好者は、このミドリシジミの仲間をゼフィルスとよんでいます。ゼフィルスとは、ギリシャの西風の神ゼフィロスに由来する名前です。ミドリシジミの[※]属名としてむかし使われていました。（今はネオゼフィルスという属名に変わりました。）それで、ミドリシジミの仲間の全てをゼフィルスとよぶようになったのでしょう。ゼフィルスは世界じゅうで110種ほど、日本じゅうでは24種が知られています。富山県内では、今のところ18種のゼフィルスが知られています。^{※※}それらのうち、ヒサマツミドリシジミは最近になって、県の北端部でみつかったものです。同じころ新潟県の南端部でもみつかっていて、その場所が、ヒサマツミドリシジミの分布北限となっています。

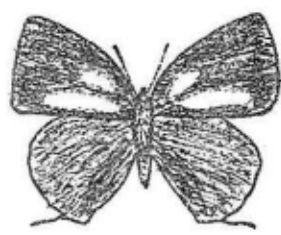
ミドリシジミの仲間の一生は、互いにたいへんよく似ています。成虫は、一年に一度だけ梅雨の



ヒサマツミドリシジミ



ヒサマツミドリシジミ ♀



ヒサマツミドリシジミ ♂

季節に現れます。き
びしい冬は卵で越し
ます。春、幼虫のエ
サとなるブナやミズ
ナラ、コナラなどの

木々の芽がふくころに幼虫が卵からかえります。幼虫は木の芽や若
葉を食べて大きくなります。5月の末ごろにはサナギになり、6月
から7月になると成虫が羽化してくるのです。彼らのメスは卵を木
の芽のつけ根や、小枝のまたの所などに産みつけます。卵はそのま
ま、夏、秋、冬、とすごすのです。こうしたミドリシジミの仲間の
一生は、彼らのエサである落葉広葉樹の一年の周期にたいへんうま
く合っているのです。 虫

※ミドリシジミを学名で書くと、*Neozephyrus taxila* (ネオゼフ
ルス・タキシラ) となり、そのはじめの部分の *Neozephyrus* が
属名です。 *taxila* は種小名といいます。

※※ 18種の 名前を記しておきます。

ウラゴマダラシジミ、ウラキンシジミ、ムモンアカシジミ、ウラ
クロシジミ、アカシジミ、ウラナミアカシジミ、オナガシジミ、
ウラミスジシジミ、ミズイロオナガシジミ、ウスイロオナガシジミ、
ミミドリシジミ、アイノミドリシジミ、メスアカミドリシジミ、
ヒサマツミドリシジミ、エソミドリシジミ、オオミドリシジミ、
ジョウサンミドリシジミ、フジミドリシジミ。



富山市科学文化センター

富山市西中野町3丁目1番19号 (〒930-11)

電話 富山 (0764) 91-2123 (代表)

昭和56年6月1日発行